

学校経営推進費 評価報告書(2年め)

1. 事業計画の概要

| | |
|--------|--|
| 学校名 | 大阪府立西淀川支援学校 |
| 取り組む課題 | 生徒の自立支援 |
| 評価指標 | 1 支援学校における児童・生徒、保護者の学校満足度の向上 2 学校教育自己診断（教員） 3 専門性に関する自己評価シート（西淀川支援学校用）における支援機器の活用による評価向上 |
| 計画名 | 「どんどんいこーぜ！プロジェクト」 教育活動における移動支援機器の活用プログラムの充実および移動支援機器学習段階表を用いた評価の妥当性の検証 |

2. 事業目標及び本年度の取組み

| | |
|------------------|---|
| 学校経営計画の 中期的目標 | 3 【子どもの障がいの状況に応じたより良い教育活動を実践するため、特別支援教育に関する高い専門性と授業力の向上をめざす】 2) 新しい支援機器を導入する等、支援機器の充実による自立活動の指導内容の充実 ア 児童生徒の実態に合わせた様々なスイッチ等を開発、ロコモーターを有効活用し、電動車いすによる児童生徒の積極的な社会参加を促進 ※ 実践報告会等での実践事例の共有。支援機器の有用性に対する肯定的評価 80%以上とする |
| 事業目標 | 児童生徒の障がいの状況に応じた教育活動を実践するため、「移動支援機器（Don Don ikoo）」を活用した教育プログラムの充実をめざす。平成 30 年度は 72%であった学校教育診断（教員）における支援機器の有用性に対する肯定的評価を、この事業を通して毎年 3%ずつ引き上げる。また、移動支援機器を使用した児童生徒の認知発達の向上を、移動支援機器学習段階表（15 段階）を用いて評価する。そして、その評価の妥当性を検証し、有用性の高い評価指標を精査する。 |
| 整備した 設備・物品 | Don Don ikoo（どんどんいこー）3 台 ※ 製品概要：自力で移動できない重度の障害を持った子供が自分の意志で移動できることを可能にした電動台車。荷締めベルトで固定するだけで、様々な姿勢保持装置を乗せて動かせる。 |
| 取組みの 主担・実施者 | 主担： 特色創造プロジェクトチーム 取組みの実施者： 全教員の 7 割程度を予定 |
| 本年度の 取組内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 特色創造プロジェクトチーム 2 年め発足 ・ 専門性に関する自己評価シート（西淀川支援学校用）を全教員に実施、現状分析（6 月） ・ 移動支援機器指導対象児童生徒・授業を決定・実践開始（10 月） ・ 専門性に関する自己評価シート（西淀川支援学校用）を全教員に実施・最終評価（1 月） ・ 指導事例検討：高等部（2 月） ・ 指導事例検討：中学部（3 月） ・ 次年度に向けた方針決定（3 月） |
| 成果の検証方法 と評価指標 | 1 学校教育診断（保護者）：「子どもの可能性を向上させる授業が行われている」 肯定的評価 75%に引き上げる。 |

| | |
|---|--|
| | <p>2 学校教育診断(教員) : 「支援機器の活用により指導内容の充実が図られている。」 肯定的評価 75%を3%引き上げ、令和2年度 78%にする。</p> <p>3 専門性に関する自己評価シート(西淀川支援学校用) : 自己評価3以上を60%にし教員の支援機器の活用の推進を図る。</p> <p>4 移動支援機器学習段階表(15段階) : 評価の妥当性を検証し、段階が1段階以上向上した児童生徒を60%にする。</p> |
| <p style="text-align: center;">自己評価</p> | <p>1 学校教育診断(保護者) : 肯定的評価 96%..... (◎)</p> <p>2 学校教育診断(教員)については、:肯定的評価 87%..... (○)</p> <p>3 専門性に関する自己評価シート(西淀川支援学校用) : 「支援機器③移動支援機器(Don Don ikoo等)を活用した指導の知識と技術」の項目は自己評価3以上が小46%、中高56%であった。..... (△)</p> <p>4 移動支援機器学習段階表(18段階) : 1段階以上向上した児童生徒80%... (○)</p> <p>※ 指導事例5例(中3名、高2名)のR1年度~R2年度の評価指標による評価</p> |
| <p style="text-align: center;">次年度に向けて</p> | <p>次年度は、特色創造プロジェクトチームで検討・協議して3年間の事業のまとめを行い、事業報告冊子を作成する。この中で「肢体不自由のある子どもと移動支援機器」、「移動支援機器学習段階表」、「指導事例7例(小2名、中3名、高2名)」について報告する。この内容は、第67回全国肢体不自由教育研究協議会(11月)、大阪肢体不自由自立活動研究会第40回研究発表会(2月)で報告する。校内では、3月に最終報告会を実施する。</p> <p>指導事例6例(小2名、中3名、高1名)の指導を継続して行う中で、各ステップ、各段階の検討・協議を行い、移動支援機器学習段階表の完成をめざしていく。</p> <p><改善の方向性></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ステップ①~③においては認知、情緒などの発達の視点を踏まえ、重度重複障がいのある児童生徒の移動支援機器を活用した学習をどのように進めると効果的かを検討していく。 ・ ステップ④については、交通道德、操作技能の項目を設定することで、移動支援機器を日常の移動ツールとして使い、社会参加していくステップを明確にしていく。 |